

おぐる はつでんしょ  
**小黑発電所**

伊那谷に電力を供給し100年

伊那谷に現存する一番古い発電所。小黑川上流に、長野電灯(株)が建設し1913(大正2)年に完成。1915(大正4)年、伊那電気軌道(株)へ譲渡され、伊那電気鉄道に電力を供給する等、上伊那地域の発展に大きく寄与した。現在は中部電力(株)が管理している。

建設当時は、約2km上流の取水口から発電所の真上に見える水槽まで木の樋を使い、導水路延長1,358m、落差226mで、250kwの発電をしていた。現在は機械の取替えにより1,100kwの発電が可能である。

2013(平成25)年に、運転開始から100年の記念式典が行われた。



(注:川の中および発電施設は危険ですので、近づかないようにしてください)



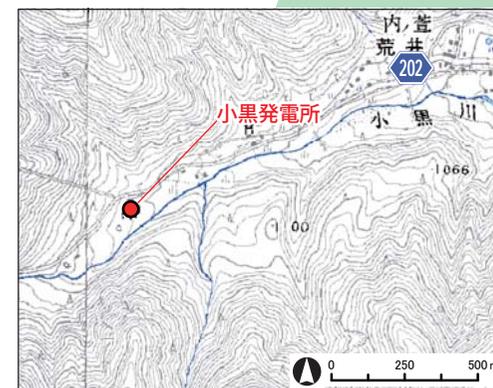
1942(昭和17)年電気事業の配電統制令により、全国の電力会社が9社に統合された。伊那地方は中部配電会社管轄下となった。

1913(大正2)年に中箕輪尋常高等小学校(現箕輪中学校)の集団登山で11名の遭難者を出した事件を題材にした新田次郎の小説「聖職の碑」にある「内の菅発電所」は、この小黑発電所のことである。

information

□ アクセス  
伊那ICから15km  
車→30分

□ 所在地  
伊那市伊那



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)



信州初の  
発電所は?

不買運動

1898(明治31)年、長野電灯(株)は、長野市内を流れる裾花川に信州で最初の発電所となる茂菅<sup>もすげ</sup>発電所を建設した。当時は「水から火が灯れば、太陽が西から出る」と、発電を本気にしない時代であった。

長野電灯(株)より先に、伊那町(現伊那市)で「伊那電灯会社」の計画があったが、長野電灯(株)への権利譲渡という形で協議は決着した。しかし、赤穂村(現駒ヶ根市赤穂町)では、村営発電の意志が強く、長野電灯電力の不買運動騒動にまで発展した(赤穂電灯騒擾<sup>そうじょう</sup>事件)。